

授業科目名	教育制度論演習
科目番号	CB24012
単位数	1.0 単位
標準履修年次	3 年次
時間割	春AB月2
担当教員	藤井 穂高
授業概要	教育政策において、「資質・能力」(コンピテンシー)がどのように論じられているのか、国内外の施策を取り上げ、その内容を検討する。
備考	対面
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	教育学の基礎的体系的知識、教育学的実践力
授業の到達目標 (学修成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育制度論的な分析の視点を学ぶことを目的とする。 ・ 学習指導要領の改訂に係る資質・能力論に関する論文を中心に検討する。
授業計画	<p>近年、わが国では大学入試改革が政策課題となっている。いくつかの改革を経てきているはずなのに、教育制度上の課題であり続けているのはなぜか。その改革の論理を諸外国とわが国の先行研究を踏まえて検討する。</p> <p>第1回 オリエンテーション、今日の教育政策における資質・能力論の概説</p> <p>第2回 松下論文の検討</p> <p>第3回 松尾論文の検討</p> <p>第4回 平塚論文の検討</p> <p>第5回 水原論文の検討</p> <p>第6回 鳶島論文の検討</p> <p>第7回 今西論文の検討</p> <p>第8回 福田論文の検討</p> <p>第9回 石井論文の検討</p> <p>第10回 資質・能力論の今後の展開の可能性</p> <p>第11回 試験</p>
成績評価方法	担当論文に関する報告(30%)、議論への参加(20%)、試験(50%)を総合して評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	<p>資料は毎回の授業で配布する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 松下佳代(2010),「序章 <新しい能力>概念と教育」同編『<新しい能力>は教育を変えるか』ミネルヴァ書房 2. 松尾知明(2016),「知識社会とコンピテンシー概念を考える—OECD国際教育指標(INES)事業における理論的展開を中心に」、『教育学研究』83-2. 3. 石井英真(2016),「資質・能力ベースのカリキュラムの危険性と可能性」、『カリキュラム研究』25. 4. 平塚真真樹(2006),「移行システム分解過程における能力観の転換と社会関係資本」、『教育学研究』74-4 5. 福田誠治(2008),「グローバリズムと学力の国際戦略」、『教育学研究』75-2 6. 鳶島修治(2010),「『生きる力』の再定義をめぐるポリティックス」、『年報社会学論集』23 7. 今西幸蔵(2008),「OECDとキー・コンピテンシー」『学校教育研究』23 8. 水原克敏(2017),「教育課程政策の原理的課題」、『教育学研究』84-4

オフィスアワー等（連絡先含む）	春学期 木曜3,4限 秋学期 木曜2,5限
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	参加型の授業形態をとるため、そうした形態に意欲をもって臨めることが望ましい。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	教育制度，資質・能力，教育改革